第１回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会　会議録（要旨）

会議名　　第１回　旭川市民文化会館整備基本構想検討会

開催日　　令和５年６月１３日（火）
　　午後１時３０分から午後２時４０分まで

開催場所　旭川市神楽公民館　第２学習室（神楽市民交流センター２階）

出席者　　参加者　全１２名のうち９名出席
（敬称略）　　五十嵐　真幸，上田　信津子，大口　優，佐藤　淳一
　　鈴川　雄太，水野　雅文，南　裕一，宮田　健一，森　傑
　　市長（冒頭挨拶のみ）
　　事務局　４人出席
　　社会教育部長，文化ホール担当課長，市民文化会館主査（２人）
　　事務局支援　７名
　　北海道大学大学院建築計画学研究室

会議の公開非公開の別　　公開

傍聴者数　　６名

会議資料　　別紙のとおり

１　開会

２　挨拶

市長：

- 文化会館は建設から約半世紀を経て，求められる在り方も大きく変わってきている。
- 文化会館の建築を通じて，まちづくりそのものを議論してもらえるとありがたい。
- 例えばMICEの可能性を検討するといった機能面の拡充に加え，市民の笑顔があふれるような施設にしたい。皆様のきたんない御意見を踏まえ，未来に向けた議論を進めたい。

３　参加者紹介

４　進行役選出
参加者から「森　傑」氏の推薦があり，参加者全員の了承を得て決定

５　議事

進行役：

- 昨年度の検討会にて文化会館の建替えを基本として検討を進めるという方向性が決まり，今年度は具体的にどのようなホールにしていくのかを議論していく「基本構想」の取組となる。
- 文化ホールの性質は，多目的に対して柔軟性を持つものやオーケストラ等に専用特化したものなど幅があり，そのまちが施設を使ってどういったまちづくりをしていくのか，どういうところで市民にサービスを提供していくのかという考え方によって，施設の性能等が変わってくる。
- 建設費の高騰が著しく，年に２～３割程度上昇している。財政面を鑑みても，要望を全て積み上げていくというわけにはいかないので，このまちのコンセプトとして，何を優先的に考えるのかということを決めることが大事であり，そのために皆様と意見交換していきたい。
- また，本検討会事務局の補佐として，研究室の学生と卒業生であり教員が参加している。苫小牧市の市民ホール計画に携わった経験や情報等を生かし，本検討会に貢献できればと思う。

５―（１）　検討会趣旨説明

事務局：
資料１の「旭川市民文化会館整備基本構想検討会運営要綱」及び資料２の「旭川市民文化会館整備基本構想検討会参加者名簿」に基づき説明

５―（２）　旭川市民文化会館の整備の方向性について

事務局：
資料３の「旭川市民文化会館整備基本構想検討会について」及び資料４の「旭川市民文化会館の整備の方向性について」に基づき説明

進行役：

□　資料３の 21 ページについて補足

・ 理念・目的・コンセプトについて，道北地域における位置付けとあるが，旭川は難しい立ち位置にある。多くの自治体では，人口減少により，稼働率の低いホール施設は縮小し，大きなイベント等は旭川市くらいの規模の都市に任せようという発想になっている。旭川市として，それらをどこまで責任を持って引き受けるのかが一つの大きな要点となる。一方で，極論であるが，そうした大規模催事は全て札幌市に任せてしまうという考え方もなくはない。

・ ホール機能について，設備性能についても議論する必要はあるが，最も重要となるのはホールの座席数である。現施設の大ホールは 1,500 席程度であるが，全国的な興行や周辺地域のイベントを引き受けるとなると，1,800～2,000 席が視野に入ってくる。

・ 複合化について，稼働率という観点から言うと，コンベンション機能は利用頻度がイベントの有無に左右されるため，大きな相乗効果は期待できない。どういう機能を複合すれば常に稼働するのか，市民に利用してもらえるのかという視点が重要になる。

・ 場所に関して，市が所有する土地は限られている。ホール施設はその性質上，瞬間的な人の動きを吸収できる場所でないと事故や渋滞などが発生するおそれがあることから，駐車場や広場のスペースなど，土地のゆとりをどれだけ確保できるかがポイントとなる。ただし，その全てをホール施設が担う必要はなく，例えば駐車場に関しては，周辺施設と連携して吸収されるのであればそれで解決する。

・ 管理運営に関して，直営で行うのか，指定管理とするのか，PFI など民間活力の導入により，施設建設から 20～30 年間の維持・管理・運営まで一括して契約するのかという検討も必要となる。

・ さらに市民参加の仕組みについても基本構想として議論する必要があり，市民の人々が知る機会・発言する機会をいかに多く取り入れていくのかという配慮が求められる。

□　資料３の 22 ページについて補足

・ コストにはイニシャルコストとランニングコストがある。

・ イニシャルコストは，1,500 席程度の大ホールのみ，単独の施設と仮定した場合で 100 億円程度の予算が見込まれるので，仮に大ホールを 1,800～2,000 席とし，さらに会議室等も加えると，130～150 億円程度に予算が膨らむと想定される。

・ 一方で，費用をかけ長く使える施設として整備することは，結果としてランニングコストを圧縮することにもつながる。こうした点も考慮し，イニシャルコストをどれだけかけるのかということを議論していく必要がある。

・ 基本機能について，ユニバーサルデザインやバリアフリーは，現代において当たり前の概念となっているが，多様な属性の人々が参加できる仕組みを考える必要がある。

□　ホールの立地について

・ 現施設は座席の配置や間隔等に余裕がない点を考慮すると，新たに建設するホールの面積は，現状よりも大きくなると考えられる。ホールという施設の特性上，一定程度の面積が最低限必要となるため，今よりも地上の範囲が小さくなることはない。
・ また，面積だけでなく，搬入を考えた道路との接続などについても考える必要がある。

５―（３）　意見交換

参加者：

・ 先日，文化会館の催事に参加する予定があったが，新庁舎の工事中で車での移動が不便ということもあり，雨が降ったら行くのをやめようと思っていた。
・ 娘と一緒に文化会館へ行った際，ホールが稼働しておらずシャッターが閉まっており，「ここは何をするところなのか」と聞かれたが，上手く説明できなかった。安全管理上，立入制限があるのは仕方がないが，新しく造る時には見て楽しめる，伝えられるようなものがあれば良いと思う。
・ 複合施設としていろいろなことができるのは良いが，見て楽しめる要素など，ホールとしての基礎機能以外の部分でも楽しめるようなものになれば良いと思う。

進行役：

・ ホール新築時は，利用経験に差があることから，全ての人が利用するわけではないのになぜそんなにも予算を使う必要があるのかという議論がよく出る。御指摘のとおり，日常的に足を運ぶ施設とすることで，ホールの催事に対する関心を喚起することが大事であり，催事がない時にどのような開放の仕方があるか考えていく必要がある。

参加者：

・ 市民が，自分たちの願いや意見が反映されたと実感でき，誇りに思えるような施設になってほしい。
・ 特に若い世代の市民が，いつでも行けると思える施設になってほしい。
・ 限られた人だけでなく，多くの人が関心を持つきっかけとなるよう，災害時にも使えるなど，全ての人が使える要素を含まれていることを大事にしたい。
・ 雨が降っていても，どんな人でも気軽に立ち寄ることができ，居場所となるような，インクルーシブな要素を持った施設であると良い。

進行役：

- 昭和の高度経済成長期の施設建設は，他自治体で評判の良い建物と同じような施設を建てようという，コピーアンドペーストのような考え方であったが，現代では自治体ごとのオリジナル性をどれだけ練り上げられるかということが求められる。良いところを参照しながら，自分たちの個性，固有の課題について議論する必要がある。

参加者：

- 建て替えるという話になっているが，敷地面積を考慮すると，現施設の近隣で建替え可能な場所を選定することは難しい。現市庁舎の解体後，跡地を活用するとしても，緑橋通り側まで敷地全部を使っても足りないくらいの規模感になる。
- 場所の選定が重要。高齢化等を考えると交通の便が良いところが良いが，何か所かある廃校跡地は交通の便が悪く，建設場所として選定できないと考える。
- また，現施設と同程度の規模の文化施設が，周辺の市町村にはない。他の市町村の面倒を見るという気持ちで造る必要があると考える。
- 複合的な施設を造ってほしいが，いらないものは削り，必要なものを加えるという検討が必要。今ある施設が全て機能的に使われているのか，稼働率などデータとして洗い出していく必要があるのではないか。
- 展示室について，今回の資料には一言しか書かられておらず，ホールが中心になっているが，現在の広さの展示室はこれからも必要であり，それに付随する施設がないのが一番の課題。展示ホールという大きな考え，それに付随する施設等，展示関係の充実を図ってほしい。
- 文化・芸術活動とは楽しむもの，あるいは自己を高める，成長させるものである。金儲けをしようという考えではなく，育てるものという考えで進めてほしい。文化芸術振興条例の中身を吟味し，新しい施設との整合性を考えていく必要があるのではないか。

進行役：

- 敷地については，基本的な平面の広がりが納まれば設計上の工夫はできるが，場所の選び方次第で工夫できる範囲が変わってくることから，その点を含めて今後詰めていく必要がある。
- 稼働率と道北での立ち位置については，周辺自治体の稼働率の悪いところ，割に合わないものを担うということにもなるので，相当の覚悟が必要になる。
- ホールに展示室が付属しているというのは，実はユニークな施設。今回，展示室をどれだけの規模で計画するのかという点は，MICE やコンベンション等に係る運用とも関係してくる。専用の展示室というよりは会議室等と兼用という方が現実的だと考えられるが，そのあたりの落としどころが難しい。

・ 公共施設は，お金が儲からなくても平等に市民サービスを提供するという視点で考えることが基本であるが，全て市の直営となれば，莫大な負担となる。公共性を維持しつつ，財政負担も考慮した整備手法・運営手法について考えなくてはならない。

参加者：

・ 市長も言っていたが，まちに対する環境をデザインするということが大事。
・ コンサートに行ったことがない，シャッターが閉まっている，建物が入りづらいといったことは，文化会館の入口のエントランスが垣根を作っている気がする。広場があっておのずと人が集まる海外のホールのように，その垣根を取り払えるような，一つのランドマークになってほしい。
・ 施設自体に魅力を感じ，足を運ぶ機会ができることで，文化・芸術に触れる最初の足掛かりになるような場所になると良いのではないか。
・ 現施設を使用した際，音響の面で物足りない感覚を持った経験がある。ここのホールだから演奏したい，このホールでレコーディングを行いたいと思われるような，音響面や文化面等で総合的に優れた建物ができると良い。

参加者：

・ 稼働率という観点から考えると，音楽の占める割合が高いようなので，良い音楽を良い環境で聴けるということは重要なのではないか。
・ 一方でコンベンションについては，ある程度大規模なものに限ると１年間に５～10 件程度であるが，１件あたりの経済効果が非常に大きい。
・ 現状，市民文化会館は近隣のホテルと併用で 1,000 人規模の催事を開催することができることから，旭川市内においてコンベンションを誘致する上で，一番の施設である。
・ 技術的な面で，会議室を多目的に使用可能なつくりにするなど，今より少しでも良くなると良いのではないか。

参加者：

・ 音楽的な面で良いホールを造ってほしい。良いホールがあるからこそ，そこへ多くの人や団体が集まってくると思う。
・ 一極集中になっていく世の中で，札幌の文化に対して旭川の文化があるというように，全てをよそに任せるのではなく，旭川の文化を育んでいく基盤となるようなホールを造りたい。
・ 現施設の大ホールは，1,500 席程度を有するが，それを区分して使用するといったことができない。札幌の hitaru や kitara 等では，一部だけ使用することも可能。大ホール・中ホール・小ホールと全部を建てるわけにはいかないのだから，客席のとり方などを考えて，様々な使い方ができるホールになることが望ましいと考えている。

進行役：

- 周りから任せようと思われているということは，それだけ期待されているということでもある。このことを踏まえて，前半においては，何が個性になるのかという点を議論していきたい。

参加者：

- 将来の子供たちのために，造って良かったなと思えるようなホールを造れると良い。
- 例えばコンベンション機能に関して言えば，ホテルと連携するのであればホール側にはそこまで会議室は必要なく，リハーサル室とも兼用できるのではないかといったように，周辺に何があるか，どこに建てるのかが重要になると思う。
- 最近は大きなホールでも，平土間にできるホールもある。避難場所やスポーツイベントの開催場所としても使用できる施設など，まずは様々な可能性を含めて議論したい。
- 席数可変式の中小ホールとして建設する等，現在公会堂が担っている中ホール規模の機能を今後どうするのかについても，あわせて考えていく必要がある。

進行役：

- ホールとコンベンションという組み合わせは全国的にセットで議論されることが多いが，必ずしも効率的な組み合わせとは限らない。
- 例えば立地に関して，コンベンション機能からすると公共交通の面で不満が出やすいためまちの中心地が良い一方で，ホール機能からするとまちのはずれでのどかなところの方が良いといった考え方もある。良い組み合わせかどうかという点も含めて，今後議論していきたい。

参加者：

- 現施設ができたばかりの時は，とてもきれいな施設というイメージがあった。以降も様々な催事で訪れた経験があり，文化会館という施設が現在地にあることが普通だと思っていた。
- 難聴の方，お年寄りも同じ場所で一緒に楽しめるような，補助的な手法についても考える必要があるのではないか。

進行役：

- 現代は，体の不自由な方や障害のある方が芸術を楽しむことができるよう，いかに工夫するかを考える時代。ダイバーシティ，多様性の観点も含めた旭川市の文化についても議論していきたい。

６　閉会